



聞き手の発話から一斉授業における対話は いかになされるのか

キーワード 聞き手, 一斉授業, 対話, 授業研究

研究内容

グループやペアによる学習が中心となっている現在においても、やはり授業において学級全体で話し合い、様々な考えを交流することはとても重要なことです。一方で、学級全員が参加する一斉授業では、教師が児童を指名し (initiation), 指名された児童が答え (reply), 教師がその答えを評価するという (evaluation), IRE 構造に基づくコミュニケーションが行われています。このコミュニケーションでは、指名された児童以外の「聞き手」となる児童の授業参加の様子は、教師にとっては非常に捉えにくく、受動的に聞いていると考えられる傾向にあります。実際には、「聞き手」の児童も教師から指名されていないとも教師や指名された「話し手」の児童に対して、様々な反応をしながら聞いています。教師の指名を経ないながらも授業内でなされている様々な聞き手の発話に着目し、一斉授業における聞き手を含めたコミュニケーションがどのようになされているのか検討しています。

関係論文, 特許・著作物等の知財情報, 連携の実績

- ・横山愛 (2021), 教師は指名されていない児童の発話をどのように授業に活かすのか——授業計画が変更される場面に着目した事例分析, 質的心理学研究, 20 (特集), 43-50.
- ・横山愛 (2023), 指名されていない児童から広がる一斉授業の対話——対話構造と内容の変化に関する分析, 質的心理学研究, 22, 45-61.

社会連携・産学連携の可能性

児童の主体的な授業運営や学習に向けた共同研究などが可能です。